

<令和7年6月11日（水） 教育長定例会見>

○ S T S

今年度の小学校教員採用試験の倍率が1倍以下でした。定員割れへの受け止めを聞かせてください。

○ 教育長

きめ細かな教育の充実のため、退職者数以上に数を増やしたり、育児休業の代替の先生を従来の臨時的任用から正規職員に変更したりして募集人数を増やしました。その結果だと思っています。

今後も正規職員の割合を上げる方針です。秋の採用選考試験も行います。

○ 朝日新聞

唐津青翔高校でeスポーツ学科を新設する理由を教えてください。

○ 教育長

同校では、「TSUNAGARU プロジェクト」を実施しています。その学びの特長の一つである、「未来につながる新しい学び」としてeスポーツの導入を考えました。玄海町、学校とも協議し、特色ある学びとしてeスポーツ学科を取り入れることにしました。

eスポーツをつくるには、様々な技術が必要で、そのためのデジタル技術を学べるのが特徴。戦略的思考や実行力、コミュニケーション能力も育む学びにしたいと考えています。

○ 朝日新聞

高校無償化による、県内への影響をどう分析されていますか。今後、影響を調べる予定はありますか。

○ 教育長

影響が出るのはこれからだと思っています。現在、各県立高校で唯一無二の誇り高い学校づくりに取り組んでいます。また、県内各地にあり、普通科のほか専門高校や総合学科など、学びの多様性がある配置ができています。その魅力を磨き上げていく考えです。

○ 佐賀新聞

デジタル採点システムは、どのように使うのですか。

○ 教育長

デジタル採点システムは、模範解答をスキャナーで読み込みデータに取り込みます。クラスの答案用紙をスキャナーで読み込むと、同じ設問の解答が全員分並ぶため、1つの画面で同じ解答を採点できます。

採点が終わると自動的に配点に従って集計されます。記述式の部分点も、解答が並んでいるため、生徒間でぶれがないか、確認しながら採点できます。記号を選択する問題は自動採点し、集計。スキャナーで読み込んだ答案用紙に、採点結果が反映されます。また、分析表もありデータが手元に届く形になっています。

さらにクラスの平均や解答傾向を把握でき、いろんなデータ分析もできるようになっています。

○ 佐賀新聞

デジタル教科書導入への考えをお聞かせください。

○ 教育長

現在は、デジタル教科書と紙の教科書を併用しています。それぞれのよさがあり、併用できると思います。それが使いやすいと思います。

○ 毎日新聞

デジタル採点システムは、全国的にも広がっているのですか。

○ 教育長

広がってきています。佐賀では試行運用し、一番いいシステムを県内に広げました。

○ 朝日新聞

実証した中で見えてきた課題などをお聞きかせください。

○ 県職員

最初の実証したシステムでは、初期設定に時間がかかっていました。後で取り入れたシステムでは、その負担が軽く、メリットのほうが目立っています。

○ 教育長

感覚的に使えるようになっているのが一番大きいです。